

## 全国集会の記録

20周年記念出版の企画として、私は、これまでの全国集会の世話人の方々に、集会の思い出話や苦労話について執筆してもらい、それを編集するという仕事を請け負いました。原稿締め切りを3月15日とした依頼状を世話人経験者に発送したのが2001年1月31日でしたので、作業が遅れること1年以上になってしまった訳です。この作業の遅れについて、先ずはお詫びいたします。

さて、これまで何度か集会を世話された大滝末男元会長からは、私からの執筆依頼状に対し、2001年の2月5日付で回答が寄せられました。全

国集会に関する内容ではないのですが、せっかくの機会ですので、はがき一面にびっしりと書かれた大滝先生の文章をここに掲載することとしました。どうぞご覧下さい。なお、後日大滝元会長から送られてきた資料の多くは新聞記事と別刷り、そして懐かしい写真(写真1)、そして記念誌用の原稿も同封されていました。この原稿のタイトルは「尊敬する牧野富太郎先生に感謝と感激を捧ぐ」というものですが、第1回の全国集会の様子ということで掲載しました。

島根大学汽水域研究センター 國井 秀伸

### 大滝末男元会長からの葉書

(第1回全国集会報告にかえて)

拝 復

去る2月1日にお手紙を拝見しました。ご承知のように水草研は、水草同好会として、東京の井

之頭公園の講堂で、貴殿や林浩二氏ら30名ほど集合してスタートをしました。以後全国的に会員に会報を発行するようになりました。しかし、初代会長の原田先生は故人になられ、小生も昨年80才に達し、体力が病弱になり、水草の調査も不能に

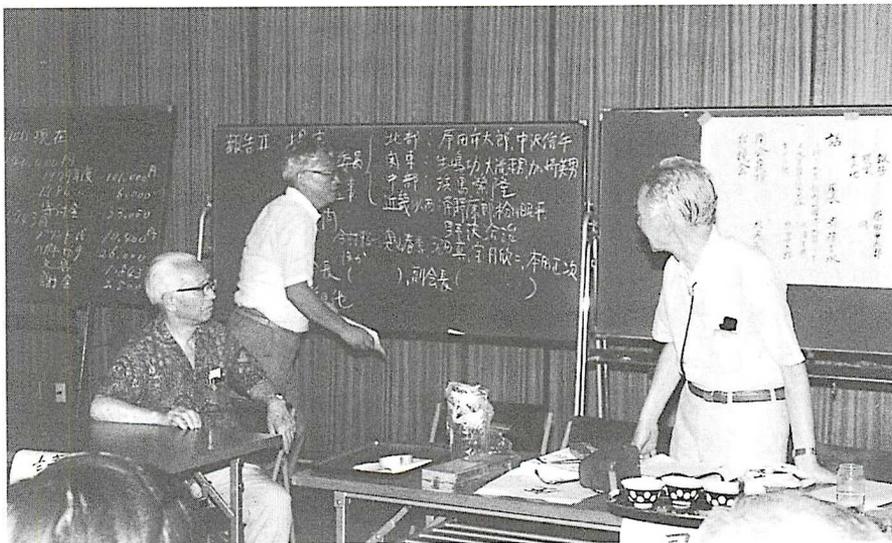


写真1. 第1回全国集会の様子(1979年8月19日、井之頭公園にて)。写真右から原田市太郎、大滝末男、齊藤吉永の各氏。黒板には委員の提案として、北部：原田市太郎、中沢信午、関東：生嶋 功、大滝末男、加崎英男、中部：浜島繁隆、近畿以西：角野康郎、粉川昭平、野沢治治という名前が書かれている。

なり、自宅療養中です。創立20年記念の原稿の件ですが、私は会報に投稿した他に、多くの方のご支援で、北隆館から水生植物図鑑他、数冊の出版物を出しています。これも植物の分類学者の牧野富太郎氏をお手本に、牧野先生の『私は植物の精である』に対し、私は終始 "Do your best!" の精神で今日まで来ております。私の発表には他にいろいろありますが、考えてみると、すべて自分の自慢話になるので、自分が述べることは本意ではないと思います。それで今まで記録した写真、印刷物、コピーしたものなどを貴殿宛に発送することにしました。2月中旬頃までに発送したいと考えています。故原田先生の資料で小生の所有し

ているもののコピーも同封するつもりです。返却しなくてよいので、角野、林氏と検討して下さい。

なお、同封して私がNHKラジオで「水草を求めて50年」のラジオ放送した資料（写真など）、また田村賞を受賞した記録などのコピーその他も同封したのでご覧下さい。私の自慢話になってもどうかと思いますので、3人でそれらの記録も、スペースの許す範囲でご利用頂ければ光栄です。牧野先生は96才で他界していますので、弱音を出さないように、あと1～2年(?)ぐらいはガンバリたいので、何分よろしくお願い申し上げます。

敬 具

## 尊敬する牧野富太郎先生に感謝と感激を捧ぐ

大 滝 末 男 (水草研究会元会長)

植物の分類学者で、牧野富太郎と聞けば、先ずご存知のない人はいないだろう。私は後にも先にも、一度だけ、直接牧野先生に、野草の和名を教えて頂いた時の感激は、80才を越えた現在でも、決して忘れられない。

私が東京高師1年の初夏に、学生寮に3年先輩の沼田真先生が訪ねてこられ、明日牧野先生が主催する、東京植物同好会の採集会に参加しないかと声をかけられたので、私一人だけ、池袋駅前に集合して二人だけで出かけた。帰路は中食のため、大泉付近の叢で、小休憩した。その時、私は厚顔にも足元にあったシダ類の切片の和名を尋ねた。その頃、牧野先生は70才前後であったと思うが、顔の全面に、満腔の微笑をして、即座に人を引きつけるように優しい声で、『ヘビノネゴザ』であると教えて下さった。その時の解答に対し、私が驚異的な感謝・感激・感動を覚えたことは申すまでもなく、現在でも決して忘れることが出来ない。

さて、私にとって、牧野先生の代表的なエピソードには、『私は草木の精である』とか『草をしとねに、木の根を枕』、『花と恋して九十年』などが有名に思う。

その意味で、私には何も無いが、平凡ながら、子供の頃から一貫して実行している終始不変のマイペースは、Do your best! 常に全力を尽くせる用語だけである。

(付)有難いことに、水草研究会の会報に、牧野富太郎が世界で最初に、ムジナモの花を発見した記事と、これを祝して、100年目の記念碑を発見地の江戸川畔に建立した記事がある。なお、当日参加した牧野先生の6女である末娘の故若佐玉代さんのご自宅で、大滝が直接頂戴した次の図書があるので、以下に紹介する。

著者 渋谷 章 (しぶやあきら)、署名『牧野富太郎 一私は草木の精である一』定価1,400円、1987年1月20日初版、リプロポート社発行。